

大賞

『生まれてきたことが苦しいあなたに：

最強のペシミスト・シオランの思想』

大谷崇 著、星海社、2019.

高嶋 歩梨（文学部 哲学科 1年）

「ペシミズム」と呼ばれる思想を知っているだろうか。「ペシミズム」とは日本語で「厭世主義」、「悲観主義」とも訳される。つまり、ペシミズムとは、世の中のことが大嫌いな人間による悲観的な考えのことである。今回紹介する本は、そのペシミズムの思想家の中でも群を抜いた暗さを持つ思想家、「ペシミストたちの王」こと、エミール・シオランについての解説書である。

シオランの思想は徹底して暗い。彼は怠惰の高貴さを礼賛するし、自殺の観念は自由と開放を与えるとすし、人生はむなしいと語り続けるし、生まれないことが一番の救済だと信じてやまない。頭痛と不眠に悩まされた生涯を送り、労働を心の底から厭って本当にほとんど働かなかった。憎しみは生きるための力になるが、そもそも生きることが嫌いなので、完全なる無関心とそれに伴う解脱（輪廻から外れ、生まれないことを目指す仏教用語）に恋焦がれ続けた。そして自殺することも解脱することも叶わないまま、84年にわたる長い生涯を閉じる。

シオランに学ぶべきことなど何もないのかもしれない。こんなにも暗い思想家を300ページにわたって解説する本書には気がめいってしまうと思う人もいるかもしれない。しかし、私はこのような暗すぎる思想の数々に触れて、逆に元気づけられてしまった読者の一人である。このさかさまの現象を、あなたにもぜひ味わってもらいたいと願ってやまない。

世の中には、明るく、希望に満ちた名言が星の数ほどある。落ち込んでいるとき、絶望しているとき、人々はあなたに希望的な言葉を投げかけるだろう。だが、その言葉のまぶしさにひるんでしまって、他者たちが遠く離れた存在に思えた経験はないだろうか。「元気を出しなよ」と言われても、自分はこんなに深く傷ついているのに、そんなに簡単に立ち直れるわけがない。そんな時、シオランの言葉は絶望の海の底で、一緒に寄り添ってくれる存在になりうる。確かに、深海のシオランの言葉は、ずっと地上で光を浴びる人には響かないものかもしれない。しかし、海の底で苦しんだ、もしくは現在進行形で苦しむあなたには、きっと希望になる。爛々と絶望を語るシオランの姿は、確実に海の底での道しるべになる。あなたを地上の息苦しさから解放してくれるのは、もしかしたら、「ペシミストたちの王」の言葉かもしれない。生きることが苦しいとき、この本とシオランという人間の存在を思い出してほしい。「最強のペシミスト・シオラン」は、きっとあなたの絶望の手本になってくれる。

さあ、深海へもぐる準備はできただろうか。地上の明るさから遠く離れ、シオランの先導で大いなる暗闇の思想に触れてみよう。本書を読み終わったあなたの眼前には、見たこともない景色が広がっていることだろう。